はじめてのし合

金屋小・３　光永　鷲生

ぼくは、テニスを習っている。一年生の時に、テニススクールのチラシを見て、母さんに体けんにつれて行ってもらった。その時、おもしろかったので習うことにした。

お姉ちゃんは、ようち園からバレエを習っている。弟も、ようち園からサッカーをやっている。お姉ちゃんは、一年に二、三回、コンクールに出ている。その度に、しょうじょうやメダルをもらって帰ってくる。家族のみんなが、その度に、

「すみれちゃん、すごいね。」

とほめるので、いつもうらやましいと思っていた。弟もし合の度に、たてやかんとうしょうをもらってきて、みんなにほめられるので、ぼくもし合に出てみたいなあと思っていた。

ある日、コーチが手紙をくれた。

「おうちの人にわたしてね。」

と言うので、見てみたらはじめてのし合のあん内だった。ぼくは、お母さんに、

「おれ、これ出たい。申しこんで、おねがい。」

とたのんだ。お母さんに、

「あ、これお姉ちゃんのコンクールと同じ日じゃん。ママつれていけないけど、どうしよう。」

と言われた。それでもぼくは、

「いやだ。どうしても出たい。」

とおねがいした。ぼくも、し合に出てみたい。みんなにテニスを見てもらいたい。ぼくだって姉弟に負けないぐらいがんばっているんだ。すると、お母さんが、

「わかったよ。じゃあ、パパしか見に行けないけどいい。」

と言った。本当は、はじめてのし合をみんなに見てほしかった。だけどぼくは、

「いいよ。しょうじょうもらってくるからね。」

とお母さんに言った。仕事から帰ってきたお父さんに、し合のことを話したら、

「おう、鷲生がんばれよ。パパがおうえんするでな。」

と言ってくれたので、ほっとしてゆう気が出た。

し合の日。お母さんとお姉ちゃんは、朝早くからバレエのコンクールに出かけて行った。ぼくは、午後からし合だったので、すぶりをたくさんしてからお父さんと会場へ行った。弟もおうえんに来てくれた。し合は一対一で、点を多くとった方が勝ちだ。五人とし合をした。中には強い子もいた。ぼくは、し合中、ボールを見きわめることに集中していた。まわりの音や声が聞こえない時があった。たくさん点が取れた。

表しょう式の時、コーチが、

「ゆう勝、光永鷲生。」

と言った。すごくおどろいたけど、うれしかった。お父さんもおどろいていた。みんなの前でしょうじょうをもらった。みんながはく手をしてくれた。はずかしくて、ちょっとしかおじぎができなかった。お母さんから、

「すごうい。がんばったね。」

とメールが来た。がんばるのって大へんだけど、こんなにうれしいものなんだとはじめて知った。

３・９